

帆よる航海練習について

瀬戸内海航海は、基本的に手漕ぎです。しかし移動距離が15キロを超え、その道中に停泊場所がない航路においては、帆を使用して目的地を目指します。

使用する帆の大きさは、横幅2.5x縦2.7です。風速5メートル前後の追い風を活用して進みます。風速によって速度が変化します。

アウトリガーなしで、安定性を確保出来る範囲での風を活用します。

舵について

丸木舟の船尾手前の右側に、幅15センチ、長さ1.2メートルの舵が装置されています。

浅瀬や海面下の障害物を避ける時は、すぐに差し抜くことが出来る構造です。

この舵を使用することで、船尾の船長も漕ぎに加わることが出来ます。

この舵がなくても、約10メートルの丸木舟を櫂一本で、スムーズに操作することが出来ます。

櫂の形状について

航海練習をするたびに、櫂の形を何度も削り直して、最高に身体に馴染むものに仕上げました。今後の航海を通して、さらに良い櫂が産まれるかもしれません。それほどに、奥の深い道具だと感じています。